

建築免震装置を増産

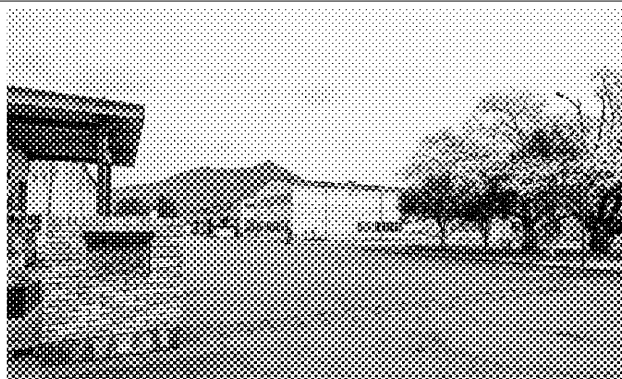
川金HD、子会社にライン

【さいたま】川金ホールディングス（HD、埼玉県川口市、鈴木信吉社長）は、免震装置関連の生産体制を強化する。子会社の光陽精機（茨城県筑西市）の本社工場に約10億円を投資し、今後の成長が見込まれる免震・制振ダンパーなど土木・建築向け製品の生産ラインを整備して2026年度中に稼働する。これに並行し、老朽化した光陽精機本社社屋の建て替え工事を実施しており、年内に完成する計画だ。

光陽精機は大型建設機械向け油圧シリンダーを中心に製造していたが、免震装置の需要が本格的に回復することを見越し、成長分野への投資を強める。これまで川金HDの

が高かった。だが足元「人手不足や資材価格の騰貴により、工期の延期や発注の控えが相次いでおり設備の需要が伸び悩んでいる。それでも中長期で見ると、老朽化した社会インフラの更新や大きな地震への備えなど、免震装置向けの需要は底堅い。鈴

生産体制を増強する光陽精機



木社長は「仕事が少ない今だからこそ、将来に向けた準備が重要」と投資の理由を説明する。

川金HDは免震関連の事業強化を進めている。免震装置を手がける中核子会社・川金コアテック（埼玉県川口市）には約30億円を投資。茨城工場（茨城県結城市）に橋桁を支える橋梁用支承や建物を支える建築向けの免震装置の新生産棟を増設する。27年度の稼働を予定しており、光陽精機の再編と合わせてHD全体で免震装置の供給体制強化を図っている。

川金HDの25年3月期売上高は約450億円。27年3月期に25年3月期比11%増の売上高約500億円に拡大する計画だ。